

皆さん、こんにちは。浅野です。支援の会を代表して、ご挨拶させていただきます。

### 【国家賠償訴訟の歴史的意義】

さて今年は、残留孤児の国家賠償訴訟・神戸地裁での歴史的勝訴から、ちょうど20周年に当たります。

この勝訴は、まず何より、現在も続く公的支援策（支援給付金・日本語教室・交流事業・支援相談員等）を作り出しました。現在の公的支援は決して、国が与えてくれた「恩恵」ではありません。残留孤児が自らの力で闘い取った貴重な成果です。そしてその中でも、全国で唯一の勝訴判決を勝ち取り、国の責任を明確に認めさせた兵庫県の残留孤児たちは、まさに決定的ともいえる大きな役割を果たしました。

もちろん今の支援策には、不十分な点もあります。たとえば、帰国者の二世が支援の対象からはずされているのは、大きな問題です。しかしそれでも、支援給付金や日本語教室などの支援がなければ、一世・二世を含む中国帰国者の生活は今よりずっと深刻な貧困や孤独、困難と苦痛に満ちたままだったでしょう。

そしてもう一つ、国家賠償訴訟は、帰国者どうしの団結、また帰国者と私たち支援者・市民とのかけがえのない連帯を作り出しました。訴訟がなければ、私たちはこうして出会うことも、理解しあうこともありませんでした。今日、このように皆さんが集まって交流することも、ありませんでした。

このように、今、私たちが「当たり前」のように感じている帰国者の生活や人間関係、それはすべて、あの国家賠償訴訟、そして20年前の神戸地裁での勝訴が作り出したのです。

### 【宗藤泰而弁護士・初田三雄原告団長を想う】

さて、昨年、この訴訟の弁護士・宗藤泰而先生が亡くなりました。また今年、原告団長の初田三雄氏が、折り重なるように亡くなりました。

もちろん兵庫県での勝訴は、多くの皆さんの努力と連帯の成果です。

しかしその中でも宗藤先生は、残留孤児問題を単なる戦争被害ではなく、戦後を含む日本政府の違法な政策による人権侵害だという、極めて正しい、だからこそ必勝の法理論を構築して、裁判全体を主導されました。また、徹底的に残留孤児の皆さんの立場に立って闘い抜き、勝訴を勝ち取られました。

また私は、初田さんほど優れた組織者・オルガナイザーにこれまで出会ったことがありません。悲しみや怒り、仲間への思いやりといった深い感情を根っこに据えながら、しかし感情に流されず、つねに残留孤児全体の利益を優先して、皆をまとめあげられました。まさに「熱烈な心情と冷静な頭脳」。すばらしい組織者でした。

このお二人がいなければ、兵庫県の、したがって日本の残留孤児の現状は、今とは違うものになっていたでしょう。「水を飲むとき、井戸を掘った人のことを忘れない」。私たちは今、改めてこのお二人に深い敬意と感謝を表したいと思います。

## 【日本の地で、日本人として、人間らしく生きられる社会を】

そして私は今こそ、残留孤児の訴訟が目指した、「日本の地で、日本人として、人間らしく生きられる社会」の実現が求められていると思います。ここでいう「日本人」は、日本国籍の人だけではありません。残留孤児にとって、中国国籍の配偶者や二世・三世・養父母も皆、大切な人間です。国籍を問わず、日本の地に生きるすべての人々が、人間らしく生きられる社会を作ること。これが残留孤児の願いでした。

しかし今、日本社会では、どちらかといえば外国人を排除する排外主義の動きが強まりつつあります。また日本と中国の国どうしの対立が強まり、中国に反感を抱く日本国民が、特に若い世代で増えています。こうした社会の変化は、いずれ中国帰国者にも良くない影響を及ぼすでしょう。

歴史を学ばない者に、未来はありません。ここにいる皆さんの御両親・先人たちが、「日本の地で、すべての人々が人間らしく生きていける」こと、「二度と戦争をせず、日中友好・平和な世界を作ること」を求めて闘った歴史を知ること、思い起こすことは、とても大切なことだと思います。

## 【兵庫県中国帰国者の会のさらなる御発展】

こうした様々な思いを込めて、私たち支援の会は、兵庫県中国帰国者の会のますますの御発展を心より祈念します。

まず第1に、歴史の継承です。残留孤児が体験した戦争・残留・帰国後の苦難は、決して風化させてはならない、貴重な歴史的事実です。一世の高齢化が進む今、二世・三世の皆さんには、ぜひ帰国者の会として歴史の記憶を共有し、次の世代に語り継ぎ、社会に発信していただけるよう、期待いたします。

第2に、帰国者問題は、今も未解決です。特に政府の支援策が二世を対象外としていることは大きな問題です。二世は多様ですが、特に残留婦人の二世・年長の二世には、かつての残留孤児とほとんど同じ苦難の生活を強いられている方がたくさんいます。また一世の減少に伴って、兵庫県以外の府県では、日本語教室・交流事業の閉鎖・中止が相次いでいます。今のままでは兵庫県でも、同じ道をたどるでしょう。二世にとってこれらは決して他人事ではなく、自分自身の問題です。

第3に、中国帰国者の会の発展は、日本社会全体にとっても必要です。日本社会は今、「失われた30年」といわれ、さまざまな問題が広がっています。中国帰国者が直面している困難の多くは今、他の外国籍の人々、また日本生まれの日本国籍の人々も含め、多くの人々が共有しています。だから帰国者が暮らしやすい社会を作るということは、すべての人が暮らしやすい社会を作ることでもあります。私たちは、帰国者の会と力を合わせ、「日本の地で、だれもが人間らしく生きられる社会」を実現することを心より願っています。

そして第4に、若い世代がもつすばらしい力を、ぜひ帰国者問題の解決に発揮していただきたいと思います。二世・三世には、日本で教育を受け、日本語に不自由がない方、日中のバイリンガルの人々もたくさんおられます。SNS、インターネットを通して、日本全国・全世界とつながる情報発信・運動展開の能力をお持ちの方も少なくありません。帰国者の会が、二世・三世の皆さんだからこそできる社会貢献の場になることを、願ってやみません。

以上、兵庫県の帰国者の会の一層の活躍・発展を祈念して、私からの御挨拶とさせていただきます。御清聴、ありがとうございました。

# 致兵库县中国归国者会的贺词

浅野慎一（支援会负责人代表）

大家好！我是浅野。今天我谨代表支援会向大家致以诚挚的问候。

## 【国家赔偿诉讼的历史意义】

今年正值中国残留孤儿国家赔偿诉讼在神户地方法院赢得历史性胜诉的二十周年。

首先，这场胜诉最重要的成果就是推动并制定了至今仍在持续实施的各项公共支援政策（支援给付金、日语教室、交流活动、支援咨询员等）。如今的这些公共支援绝不是国家施予的“恩惠”，而是残留孤儿们用自己的力量抗争赢来的宝贵成果。而在这一过程中，兵库县的残留孤儿们发挥了堪称决定性的重大作用，因为他们赢得了全国唯一的胜诉判决，并迫使国家明确地承认了责任，得到了司法的认同。

当然，现行支援政策仍有不完善之处。比如，归国者第二代被排除在支援对象之外，这是一个很重大的问题。然而即便如此，如果没有支援救济金、日语教室等的支援措施，包括第一代和第二代在内的中国归国者的生活，恐怕至今仍深陷于比现在更为严重的贫困、孤独、艰难与痛苦之中。

此外，国家赔偿诉讼还促成了归国者之间的团结，以及归国者与我们支援者及广大市民之间不可替代的紧密凝聚。如果没有这场诉讼，我们不会像今天这样相识、相知，也不会有今天这样的相聚与交流。

可以说我们现在所感觉到的“理所当然”的归国者生活以及彼此之间的人际关系，实际上都是那场国家赔偿诉讼以及二十年前神户地方法院胜诉所创造出来的。

## 【缅怀律师团团长宗藤泰而先生、原告团团长初田三雄先生】

去年，这场诉讼的律师团团长宗藤泰而先生不幸逝世了。今年，原告团团长初田三雄先生也不幸离世，他们相继地离开了我们。

兵库县的胜诉固然是众多人士共同努力与团结奋斗的成果。

然而宗藤先生在其中发挥了尤为关键的作用。他没有把残留孤儿问题仅仅视为战争受害问题，而是明确指出这是由于日本政府战后的长期违法政策而造成的人权侵害，并构建起这一极具正确性且必胜的法律理论，主导了整个诉讼进程。同时，他始终坚定地站在残留孤儿的立场上奋斗到底，最终赢得了胜诉。

而我本人至今从未见过比初田先生更卓越的组织者。他以悲伤、愤怒以及对同胞的关爱等深厚情感为根基，却从不为情绪所左右，始终把全体残留孤儿的利益放在首位，把大家团结在一起。真正做到了“炽热的情怀与冷静的头脑”的兼备。他是一位卓越的组织者。

如果没有这两位先生，兵库县乃至整个日本残留孤儿的现状恐怕会与今天截然不同。“饮水思源，不忘挖井人。”此时此刻，我们再次向这两位先生表达最深切的敬意与谢意。

## 【创造一个能够在日本这片土地上作为日本人有尊严地生活的社会】

我认为目前需要我们做的就是去实现残留孤儿诉讼所追求的目标——即“创造一个在日本这片土地上，作为日本人有尊严地生活的社会”。这里所说的“日本人”，并不仅仅指拥有日本国籍的人。对于残留孤儿而言，拥有中国国籍的配偶、第二代、第三代以及养父母，也都是他们至亲至爱

的人。不论国籍如何，打造出一个让所有生活在日本土地上的人都能够有尊严地生活的社会，这才是残留孤儿们真正的心愿。

然而如今，日本社会中排斥外国人的排外主义倾向正日渐抬头。与此同时，日中两国之间的对立也在加剧，对中国抱有反感情绪的日本国民特别是年轻一代也在增加。这些社会变化，终将会给中国归国者带来不利的影响。

不吸取历史教训的人，无以开创未来。我认为：让我们去了解并铭记着在座各位的父母以及前辈们为了追求“在日本这片土地上让所有人都能够有尊严地生活”，为了追求“永不再战，创建日中友好与世界和平”所走过的奋斗历程才是至关重要的。

### 【祝愿兵库县中国归国者之会进一步发展壮大】

怀揣着上述种种心愿，我们支援会衷心祝愿兵库县中国归国者之会不断发展壮大。

首先，第一点是历史的传承。残留孤儿所亲历的战争、滞留以及归国后的苦难，是一段绝不能被遗忘和淡化的宝贵历史事实。在第一代人日益老龄化的今天，我们由衷地期待第二代、第三代人能够与归国者之会携手，共同保存铭记这段历史的记忆，将其传承给下一代，并向社会广泛传播。

第二点，归国者问题至今仍未得到彻底解决。尤其是政府支援政策将第二代排除在外，这是一个很重大的问题。第二代群体虽然情况各异，但其中残留妇女的第二代子女以及年龄较大的第二代有许多人至今仍被迫过着与当年残留孤儿几乎同样的艰难生活。与此同时，随着第一代人数不断减少，兵库县以外的其他府县已经相继停办了日语教室和交流活动。照此下去，兵库县未来也很可能会走上同样的道路。对于第二代人来说，这绝非他人之事，而是与自己切身相关的问题。

第三点，中国归国者之会的发展，对于整个日本社会也具有非常深远的重要意义。日本社会如今正处在被称为“失去的三十年”的困境中，各种社会问题层出不穷。中国归国者所面临的许多困难如今不仅存在于其他外国籍的居民中，也同样存在于许多土生土长的日本国籍的人群中。因此，打造一个让归国者安居乐业的社会，也就是打造一个让所有人都安居乐业的社会。我们衷心希望大家能与归国者之会携手共进，共同实现“在日本的土地上，让每一个人都能活出尊严的社会”。

第四点，我衷心希望年轻一代能够充分发挥自身的宝贵力量，为解决归国者问题作出贡献。在第二代、第三代中有许多人在日本接受教育，能够熟练使用日语，而且也有许多精通日中双语的人才。其中还有不少具有通过社交媒体和互联网向日本全国乃至全世界发送传播信息和开展社会活动的的能力。我衷心希望并坚信归国者之会一定能够成为一个第二代、第三代人发挥自身独特优势、服务于社会的重要平台。

最后，再次衷心祝愿兵库县中国归国者之会今后能取得更加辉煌的成就和发展，我的致辞到此结束。感谢大家的聆听。谢谢大家。